

# 沖縄歴史の vol.22

## 散歩道

### ◆古民家を巡る③

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力の本誌上で連載しています。



宮良殿内 枯山水庭園の石橋 (石垣島)



銘苅家住宅 ヒンプン・屋根付きの門 (伊是名島)

沖縄本島以外にある琉球王国時代の伝統建築の中で、特異な性格を持つのが伊是名島の銘苅家住宅です。銘苅殿内とも呼ばれたこの住宅は本瓦葺きの木造建物で、母屋とアサギ（離れ座敷）、家畜小屋などからなり、ヒンプンや屋根付きの門、石積みの屋敷囲いも備えた造りです。現在のものは1906年（明治39）に建て替えられたものですが、琉球の上流階級の建築様式を伝えるものです。

銘苅家は「夫地頭」という地方役人に代々就いていましたが、尚円王の叔父を初代とし王家に連なる血筋でした。通常、地方行政のトップ（いわば村長）は百姓身分である「地頭代」で、夫地頭はその部下にすぎませんでした。しかし銘苅家だけは他の夫地頭と異なり譜代の士族であり、その身分は地頭代より上だったので、銘苅家は実際の行政にたずさわるといふよりは王族の墓である伊是名玉御殿の祭祀や儀礼を執り行う



銘苅家住宅 石積みの屋敷囲い (伊是名島)

役割を担っていました。住宅もそうした地位を反映したものになっています。

一方で石垣島には宮良殿内があり、王国時代、宮良家は石垣島行政のトップだった頭職をつとめた家でした。その住宅の規模は大きく、石積みの屋敷囲いと屋根付きの四脚門、ヒンプンを供えた赤瓦葺きの建物で、1819年頃に建てられたといえます。一番座からは琉球石灰岩が並ぶ枯山水庭園を眺めることができ、これは首里からわざわざ庭師を呼んで作らせたと伝わります。



宮良殿内 (石垣島)

首里の士族屋敷にも劣らない立派な屋敷で、頭職の家にふさわしい造りと言えますが、首里王府はこれを問題視しました。1875年、宮良殿内の豪華な造りは身分不相応として赤瓦葺きから茅葺きへの建て替えが命じられたのです。琉球の時代には「敷地家屋制限令」があり、先島の士族は首里・那覇の士族とは同列

## 上里 隆史

(うえざと・たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』（福音館書店、2020年）、『海の王国・琉球』（ポニーインク、2018年）、『マンガ沖縄・琉球の歴史』（河出書房新社、2016年）、『尚氏と首里城』（吉川弘文館、2015年）など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「プラタモリ」案内人などメディアでも活躍。



に扱われず、家譜（家系記録）の所持を許されたのも遅れ、一族を表す氏の名乗りも、本島が一字姓（毛、馬など）なのに対し二字姓（忠導、松茂など）でしか許されませんでした。宮良殿内が再び瓦葺きに戻されたのは沖縄県になり規制が撤廃された1899年（明治32）のことです。